

編集後記：長かった秋雨がようやく終息の気配をみせて、秋の清々しい空気が感じられるようになった頃、仕事帰りに立ち寄ったスーパーの野菜売り場で、袋詰めの人参を手にとって逡巡していた。売り場を一周しても踏ん切りが付かず、買い物かごが空のままという日々が、もうしばらく続いていた。

今月号の「2016年9月の日本の天候」でも分かるとおりの日照不足と多雨による野菜の生育不足と、8月の北日本で相次いだ台風被害により、今年の秋は、野菜全般の品薄と高値が深刻だった。折々の天候の影響で、旬の果物や葉物野菜の値段が上下するのには比較的慣れていたが、いつでも安定した価格で購入できる

と思い込んでいたじゃがいも、人参、玉ねぎなどの野菜まで一時手に入れにくくなったのには、なかなか驚いた。関東平野に住む私たちの身近な食が、遠く離れた彼の地の農業に支えられていることをあらためて実感した。

実りの秋も過ぎ、今年もひと月を残すのみ。これからは、天候にはあまり関係なく、クリスマスや正月に向けて、野菜をはじめとした生鮮食品の値段が高止まりする時期がやってくる。食い意地の張った私としては、夜のスーパーでの憂鬱は当然終わらなさそうである。

(大塚道子)